

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：株式会社 山都竹琉

活動地域：山都町

活動におけるテーマ

『永代不朽のまちづくり：チリも積もれば山都なる！』

本事業への関わり：1年目

活動団体と地域の紹介

(株)山都竹琉について

竹資源活用を永年推進

竹粉の使い方

土壌改良剤
Sakurida 選別した竹粉は土壌改良剤として、土壌のpHを調整し、養分を供給します。

発酵促進剤
Sakurida 選別した竹粉は、発酵促進剤として、微生物の活動を促進し、有機物の分解を加速します。

納め床
Sakurida 選別した竹粉は、納め床の材料として、竹の乾燥を促進し、品質を向上させます。

簡便飼料
Sakurida 選別した竹粉は、簡便飼料として、家畜の飼料として利用できます。

【お申込み】
品名 内容量 価格
山都竹琉 (山都竹琉) 2kg 250円
山都竹琉 (山都竹琉) 5kg 500円
山都竹琉 (山都竹琉) 10kg 1000円
山都竹琉 (山都竹琉) 20kg 2000円

【お問い合わせ先】
山都町竹資源利活用協議会
〒861-8454
熊本県上益城郡山都町川原546番 5
TEL/FAX 0967-72-1550
携帯 090-5486-3985 (11時)

竹粉碎機



竹エキスドローン散布



山都町について

- 九州のど真ん中の中山間準高冷地、総面積の7割が山林・原野、田・畑2割。
- 人口1万4千人、過疎化が進む農業と林業が基幹産業の典型的な中山間地域。
- 40年以上にわたり有機農業に取り組む地域、有機農業No. 1 (有機JAS事業者数)
- 棚田百選2カ所選定



基幹産業は農林業

「有機農業を核とした持続可能なまちづくり」
山都町が令和3年度のSDGs未来都市に選定

今後、地域を維持するためには基幹産業である第一次産業の維持、発展が必須

活動計画（概要）

地域プラットフォームを形成して 解決したい地域の課題

- ・里山・農村景観の維持（遊休農林地解消）
- ・鳥獣被害増（放置竹林が住処）
- ・人口減少・少子高齢化の進行
- ・町外への資金・労働力流出
- ・農林業の経営安定化
- ・地域内でのコミュニケーション、連携不足

上記を地域で支える仕組みづくり（プラットフォーム）

地域のありたい未来

- ・厄介者の竹（チリ）資源利活用を通して、有機農業を志す若者・移住者等の農業者への普及啓発
- ・有機農業の営みを通して、豊かな自然、文化資本を「経済資本」へ転換
- ・地域住民の支えあいや創意と団結で将来への橋渡しをする永代不朽のまちづくり

「チリ（竹）も積もれば山都なる！」

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

- ・運営主体/地域のコーディネート：【山都竹琉】
- ・事業推進（竹粉利用及び食育推進等）：【山都でしか】
- ・プラットフォーム運営支援：【地方経済総合研究所】



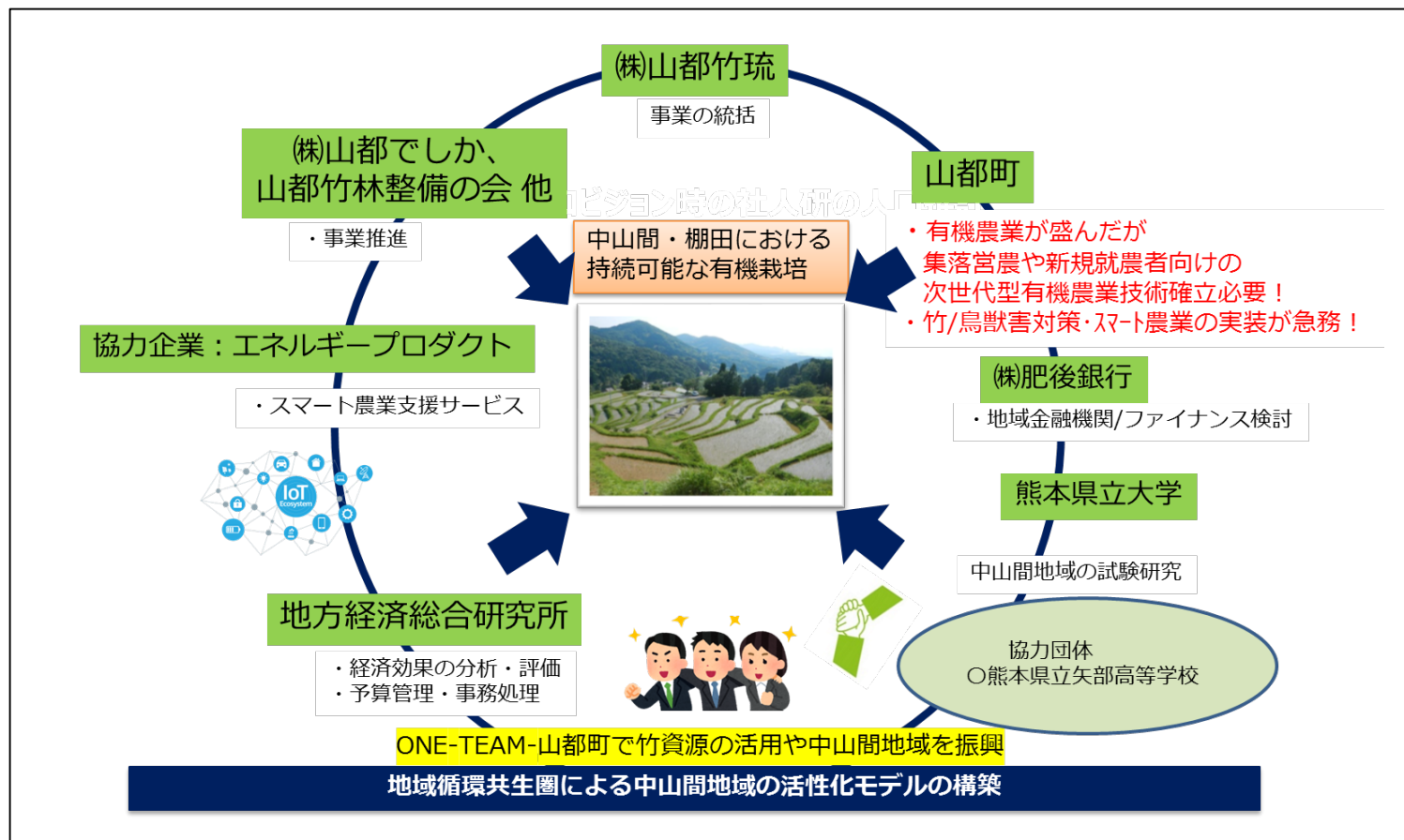
- ・山都竹林整備の会
- ・山都町役場
- ・集落営農法人
- ・エネルギープロダクト(株)

想定している資源（ヒト、モノ、資金・資産、情報、等）※地域内、外も含む

- ・地域資源1：有機農業者（ヒト）
 - 有機農業を志す若者・移住者が増加傾向にあるため、地域内で調達可能な竹堆肥の利活用を推進し、スマート有機農業による高付加価値型農業への転換を図り、仲間を増やす。
- ・地域資源2：竹（モノ）
 - 地域内の養鶏農家や有機農家とコラボする竹を活用した竹資源利活用資材（堆肥：固形・液状）
- ・地域資源3：棚田・里山・竹林（カネ・資産：農村景観保全）
 - 放棄竹林・農地の解消、中山間地域の里山機能や里山の生物多様性及び治水機能を維持する。

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

竹資源と有機農業との掛け算により、経済的・社会的な付加価値を創出し、以下を推進・促進する。

- ・山都町役場を中心とした行政の巻き込み強化により町内での有機農業活動推進（SDGs）
- ・地域の農業を担う若手農業者や集落営農法人との緊密な連携による普及促進
- ・町内外を結ぶネットワーク形成、連携促進

地域の「ありたい未来」を実現するために何をするか

地域のありたい未来

豊かな自然、文化資本を「経済資本」へ転換する永代不朽のまち

課題（地域の課題、ありたい未来を達成するための障害、等）

- ・ 里山・農村景観の維持（遊休農林地解消） → 持続可能な中山間地域の農林業維持
- ・ 鳥獣被害増（放置竹林が住処） → 竹林伐採・県内No1の竹林面積
- ・ 人口減少・少子高齢化の進行 → 町への移住者増（有機農業を志す若者・移住者増加傾向）
- ・ 町外への資金・労働力流出 → 地域内で調達可能な竹堆肥生産
- ・ 農林業の経営安定化 → スマート農業による高付加価値型農業への転換（省力化・効率化）
- ・ 地域内でのコミュニケーション、連携不足 → 上記を地域で支える仕組みづくりの場（プラットフォーム）

資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ・ 有機農業のまち、山都町 「有機農業を核とした持続可能なまちづくり」令和3年度のSDGs未来都市に選定
- ・ 全国の「山間・中山間地域×集落営農×棚田×スマート農業」のお手本の山都町
- ・ 竹資源を利活用するまち、山都町（熊本県No1の竹林面積）

取組（ありたい未来達成に必要な取組、現在想定している事業のタネ、等）

- ・ 地域内におけるコミュニケーションや連携不足を解消するため、プラットフォームを通じて、地域で支える仕組み・場づくりを行う。
- ・ 地域内の養鶏農家や有機農家とコラボする竹を活用した竹資源利活用資材（堆肥：固形・液状）
- ・ 有機農業を志す若者・移住者が増加傾向にあるため、スマート有機農業による高付加価値型農業への転換を図り、仲間を増やす。

成果（取組によって出したい成果）

- ・ 山都町の有機農業を活かした「山の都食のブランド化」
- ・ 関係人口の拡大による地域循環システムの構築

年間スケジュール

